

口腔カンジダ症に関する症状の対応について紹介します。

解説は日本音楽療法学会認定音楽療法士として口腔介護に豊富な経験をお持ちであり、

またケアマネージャー資格をお持ちの尾形由美子先生（鹿児島県 尾形歯科医院勤務）にお願いしました。



ご存知ですか？口腔カンジダ症

この数年、口腔カンジダ症に出会う事がとて多くなりました。

口腔内の問題といえば、むし歯、歯周病や入れ歯のトラブル、口腔機能低下や摂食嚥下障害といったものを思いつくと思いますが、口腔カンジダ症も食欲を低下させ口腔内の痛みや乾燥など不快な症状が多くあります。

口腔カンジダ症といえば、免疫力の低下した高齢者の方々が日和見感染を起こしたり、高齢者の方々が服用する薬の影響などで菌交代現象が起きる場合が良く考えられますが、そうばかりともいえないのが現状です。

一般の高齢者にもよく見られるようになってきているのです。

今回はこの口腔内カンジダ症についてお伝えしましょう。

さて皆さんは食欲が低下し必要な量が摂れなくなってきたときどのような点に目を向け対応されますか？まずは身体的な問題の確認をし、特に何もなければ口腔内をのぞかれるでしょうか？

食欲が低下する口腔内の原因としては、歯が痛む、義歯が痛い・ゆるい、義歯による傷がある、口内炎ができていいる・・・など様々な問題が考えられます。こうして目に見える何かがあればまだわかりやすいのですが、口腔内をのぞいても大きな変化が顕われてこないために診断が困難で、色々な病院を受診したりしても良くならないという方が非常に増えているのです。このような場合歯科では口腔内カンジダ症を疑います。とはいっても様々なタイプがあり、同じ口腔内カンジダ症でも拭うと取れる白っぽい苔状のものが頬や舌などについているケースや赤くなっている場合もあれば、なんともないのに味覚異常だけがあり食事が摂れないということもあります。

このカンジダ菌は口腔内常在菌で、外部から感染して発症するものではありません。長期にわたる抗生物質や抗菌スペクトルの広い抗菌剤、ヨードなどの長期連用によって菌のバランスが崩れて起こります。

症状としては口腔内のピリピリした痛みや甘いものが苦く感じるなどの味覚異常、口角が切れるなどがあり、結果として食欲を低下させ食事摂取が困難になっていきます。食欲が低下した、食べなくなったという方がいらっしゃったら上記の症状がないかどうか確認してみてください。

治療法はうがいや口腔内塗布により抗真菌剤を用います。再発の可能性があるため、約2週間を基本として適宜投薬期間は幅が出るようです。現在服用している薬との禁忌もありますので医師・歯科医師の指示に従ってください。

またこの原因のひとつとして口腔乾燥があげられます。しっかり唾液が出る口腔機能を維持し、乾燥しやすい場合には機能訓練やマッサージと保湿剤を併用することが大切です。



唾液の減少などによる、
お口の乾燥・ネバつきに

アクアバランス

AQUA BALANCE

薬用 マウススプレー

